

地方自治法施行令第 167 条の 2 第 1 項第 5 号 により随意契約をすることができる場合	今回の契約が左に該当すること等の説明
<p>緊急の必要により競争入札に付することができないとき。</p>	<p>1 競争入札に付していたのでは、時期を失し、契約の目的を達することができないことの説明</p> <p>2 見積を徴した事業者の概要</p> <p>3 見積合せをしていたのでは、時期を失し、契約の目的を達することができないことの説明</p> <p>本工事は、指名競争入札に付したところ、1 者応札があったものの、内訳書不備により無効となり入札を取り止めることとなった。</p> <p>当該宿舎にあつては、建築後 54 年が経過しており、近年入居もなく老朽化が一層進んでおり、本年度の実設計において外壁塗材に石綿含有を確認しており、速やかに除去する必要がある。再度の指名競争入札では十分な工期を確保できず、また見積合わせを行うことも困難であり、このままでは契約の時期を失することとなることから、随意契約（一者）により相手方を決定するもの。</p> <p>4 特定の者を選定した理由</p> <p>指名競争入札に付した際の唯一の応札者であり、技術者の確保が可能で受注意欲がある。また既に設計図書の内容を把握しており、早期の見積りが期待できることに加え、令和元年度に高山警察署待機宿舎解体工事の実績があり良好な施工が期待できることから選定するもの。</p>

備考 この様式により難しいときは、必要な事項を含む適宜の様式によることができる。